令和元年度　能美市立辰口中学校　学校評価

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】<成果指標><努力指標><満足度指標>	【評価の根拠】達成度判断基準	取組状況	評価	学校関係者評価者による意見	今後の改善策
1	組織的な学校運営	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働する中で、教員の資質能力の向上を図る。	教頭・教務	〈成果指標〉 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。	〈教職員アンケート〉 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	◇主任層が、校長ヒアリング等を通して学校経営ビジョンの理解を深め、学校全体で情報の共有や意思疎通を図ってきた。若手を中心として研修も行い資質向上にも努めている。組織としてすべてが充分とはいえないが、高まりは見られる。	A	○勤務時間の短縮について、時間が長くなる原因には何があるのか。時間がどれだけあっても足りないというのが先生の本音だろうが、自分の経験から子どもにとっては、先生との触れあいが一番心に残る。子どもと向きあう時間を大切に考えて欲しい。	◇若手研修に中堅・ベテランも参画することで、学校運営に対する意識を高め、組織力を高める。 ◇勤務時間の短縮について、先を見通して優先順位をつけ効率的に仕事を進めるために、OJTなどを大事にする。 ◇シェアリングタイムなどを活かし、より一層の親和的学級づくり、生徒の心の居場所づくりに努める。
		②「気づき」を基に、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働き方を見直し業務の改善・効率化に努め、ワークライフバランスの実践を図る。	教頭・教務	〈努力指標〉 学校行事等の機会を捉えて成果や課題の検証を行い、よりよくすることに努めたり、見通しを持ち勤務時間の短縮に努めたりしている。	〈教職員アンケート〉 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見通しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。	◇課題意識はあるが、辰人ロードマップを活用し、改善に努めよりよい学校づくりに参画しようとする意識に停滞が感じられる。勤務時間の短縮もまだまだ進まず、見通しを持ち効率的に業務を行うことに課題が見られる。	B		
		③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	生徒指導	〈努力指標〉 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	〈教職員アンケート〉 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	◇教育相談の会を毎週行い、情報を共有して方針等の確認を行い、組織的な対応に努めている。 ◇問題への早期対応も意識できており、不登校傾向の生徒は多いが、完全不登校の生徒はいない。	A		
2	確かな学力の育成（知）	①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させて、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、授業改善を図る。	教務・研究	〈努力指標〉 各教科および総合的な学習の時間で、生徒の思考を促す工夫を行い、まとめと振り返りを充実させ、主体的･対話的で深い学びを実現する。	〈教職員アンケート〉 〈生徒アンケート〉 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に行っているか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	◇各教科で振り返りの視点について研究を進め、まとめと振り返りの充実を意識した実践を行った結果、生徒の実感として、学びの高まりについての成果が現れ始めている。	A	○全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果から、家庭学習時間が少ないのに学力は全国や県の平均と変わらない。授業でしっかり力がついているということ。家庭学習の時間が増えるともっと伸びるのではないか。	◇振り返りについては、次年度も学校研究で取り組む。評価の観点が変わることへの準備とともに、振り返る活動の質をさらに高めていく。 ◇「わかった・できた」を生徒が実感する場面づくりとして振り返りを意識し、生徒が自分の成長をメタ認知できるようにしていく。 ◇学力の向上のために、学校研究を通した授業改善と辰人ロードマップを活用した教科間の学びのつながりを深めていく。
		②教師も生徒も「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」ように工夫・配慮された授業を創る。	教務・研究	〈満足度指標〉 「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さずにほめ、生徒全員が「わかる･できる」と実感できる授業を創る。	〈教職員アンケート〉 〈生徒アンケート〉 自ら学ぶ積極的な態度が身につき、授業がわかり、できるようになった実感があるか。	◇教師と生徒の感覚の間にギャップが見られる。「わかる･できる」と実感できる授業づくりのために、授業における手立てを生徒の思考の流れにマッチさせるなど、生徒の学びを中心に据えた授業改善を推進していく。	B		
		③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。	教務	〈成果指標〉 辰人ロードマップを活用し、様々な面から思考力・判断力・表現力の向上に努めている。	〈教職員アンケート〉 PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面での学力の向上に表れているか。	◇学力の検証と学びの改善について、学力調査などの機会を捉えた検証や改善策の検討は行っているが、日常的な授業への結びつきや学力の顕著な向上にはまだまだつながっていない。	B		
3	豊かな心の育成（徳）	①考え話し合う道徳の授業の一層の充実を図り、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	研究	〈満足度指標〉 中心発問を吟味し、言語活動を通して生徒の道徳的価値を深めようとしている。	〈生徒アンケート〉 道徳の時間では自分の考えを友達と交流し、いろいろな角度から考えを深めることができたか。	◇生徒の道徳的価値を深めるための教師の手立ては、研究を進めていた頃より後退している感があり、新たな方策の必要性があるが、生徒にとっては、考え話し合う道徳は定着し、良い実感を伴っている。	A	○自己肯定感をを高めるため、褒めることを行いながら、その後にどうなりたいかを考えさせるなど、次へつなげることを大切にするとよい。 ○道徳のアンケート結果も良くて嬉しい。心を育てていってほしい。 ○先生方がよく考えられていることを、家庭や子どもたちともっと共有できるとよい。	◇道徳の教科化により、評価も始まった。組織的に道徳の授業を推進するため、校内研修等の機会をつくり、授業者としての学びを深めていく。 ◇各種生徒会活動やボランティア活動がマンネリ化しないように実態に即した改善を意識していく。また、生徒自身に考えさせ、行動させる活動も推進していく。
		②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	生徒指導	〈満足度指標〉 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	〈生徒アンケート〉 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。	◇先輩の良き伝統を引き継ぎ、生徒会活動やボランティア活動への参加意識は高く、人の役に立ちたいと考える生徒も多い。	A		
		③級友との関わりや集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	生徒指導	〈満足度指標〉 生徒指導の三つの機能を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	〈教職員アンケート〉 〈生徒アンケート〉 Q－Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	◇教師は、Q-Uアンケート、生徒理解面談の工夫やシェアリングタイムの活用など、日常のかかわりも通して親和的な学級づくりに努めている。 ◇自己肯定感の高まりについては、学年により開きがあることが課題である。	B		
4	健やかな心身の育成（体）	①保健体育の授業・体育的行事・部活動を中心に体力を高めるとともに、たくましい身体、ねばり強い精神力及び親和的な人間関係を育む。	保健美化	〈成果指標〉 保健体育の授業や体育的行事、部活動を通じ、体力を向上させ親和的な人間関係を育み、粘り強く努力する心づくりに努めている。	〈各種調査〉身体計測・スポーツテストの結果が向上しているか。 〈教職員アンケート〉 生徒が仲間と励まし合い粘り強く努力する姿は向上しているか。	◇入学時の体格は小柄であるが、3年時には県平均を上回る程度にまで成長している。スポーツテストの結果では、能力に偏りが見られる。 ◇行事や体育の授業を通して人間関係を深められているが、積極的にその関係を広げることに課題が見られる。	B	○アンケート結果の肯定的なもの、良くないもの、どちらを捉えて次へのステップとするのか。子どもたちは褒められれば嬉しくて伸びる。良いところを見て、1週間先も2週間先も褒めることで伸ばしてほしい。 ○先輩を呼んで話を聞く経験は、大変良いことなので続けてほしい。	◇体育の授業や部活動を通して、生徒同士のかかわりや粘り強く努力する姿勢を高め、教師が認め褒める場面づくりを意識していく。 ◇教師がアンテナを高くし、生徒の小さな変化を見逃すことなく、より一層情報交換を密にしていく。 ◇ネットトラブル防止に向けた親子向けの講演会等を継続し、家庭での意識の向上に努める。
		②生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	生徒指導	〈満足度指標〉 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	〈保護者アンケート〉 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	◇不十分だと感じている保護者も見られるが、学校は、教育相談の会を活かすなど体制づくりは進んでおり、取り組みに対する教職員の意識も高まっている。	A		
		③家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、家族のだんらんや起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	生徒指導	〈満足度指標〉 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	〈保護者アンケート〉 ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 〈生徒アンケート〉 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。	◇学校での呼びかけや講演会などを通して、時間の3点確保を意識している生徒や、フィルタリングやルールづくりを行っている保護者が昨年よりも増え、意識は向上している。	B		
5	家庭や地域との連携	①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	教務・研究	〈努力指標〉 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	〈教職員アンケート〉 キャリア教育の視点を持ち、地域を生かした教育活動が行えたか。 〈生徒アンケート〉 地域とのつながりを考え、地域の方々や先生から学ぶことができたか。	◇総合的な学習の時間の課題研究において、外部講師として地域人材を活用することが多かったため、教職員、生徒ともにアンケート結果は良好である。外部講師バンクとして記録し、今後も取り組みを継続する。	A	○学校が子どもたちのことを考えていろいろな体験ができるようにし、自分のフィルターを通して感じることをを大切にしている。保護者の子どもへの接し方が変われば、先生方の取組がもっと生きるので、親へのアプローチも大切にするとよい。	◇授業のねらいに沿うような外部講師の活用の仕方について考えていく。 ◇キャリア教育の視点を明確にするため、課題研究のオリエンテーションなどで、生徒と意図を共有していくことが必要。 ◇学校として、一層スピード感のある情報の発信に努めていく。
		②積極的に有効な情報提供に努め、「開かれた学校」をめざして、地域や保護者の声を大切にした信頼される学校づくりを推進する。	教頭・教務	〈努力指標〉 学校からの通信やホームページ、メール配信システムを適確に活用している。	〈保護者アンケート〉 通信やホームページに目を通し、学校の情報を把握しているか。	◇学校だより、学級通信の他、情報発信のために学校はこまめなホームページの更新に努めている。昨年と比較して保護者アンケートの結果も上向きであるが、早期の発信ができないこともあり、充分とはいえない。	B		